

テーブル仕様書 操作説明書

第 1.0 版

| | |
|-------|-----------------------|
| 作 成 者 | 株式会社 Wize |
| 作 成 日 | 2015 年 9 月 25 日 |
| 最終更新日 | ここをクリックして日付を入力してください。 |

改版履歴を入れる。

[illegible]

目次

| | |
|---------------------------|----|
| テーブル仕様書 操作説明書 | 1 |
| 1. 概要 | 4 |
| 2. 使用制限 | 4 |
| 3. 動作環境 | 5 |
| 4. 動作環境設定 | 6 |
| 4.1. データベース接続用の設定 | 6 |
| 4.2. Excel のオプション設定 | 9 |
| 4.3. テーブル仕様書の環境設定 | 10 |
| 5. 操作説明 | 11 |
| 5.1. 起動方法 | 11 |
| 5.2. 環境設定 | 12 |
| 5.3. 終了方法 | 13 |
| 5.4. シート一覧 | 14 |
| 5.5. テーブル一覧シート | 14 |
| 5.6. テーブル仕様シート | 20 |
| 6. 処理実行時のチェック項目 | 28 |
| 6.1. テーブル一覧のチェック項目 | 28 |
| 6.2. テーブル仕様のチェック項目 | 28 |
| 7. おわりに | 29 |

1. 概要

テーブル仕様書は、Excel シート上で動作する、データベースシステムの開発を支援するアプリケーションです。

テーブル仕様書の主な機能は次のとおりです。

- ・ DB インポート機能
データベースに接続してテーブル定義情報を取得し、Excel シートに表示します。
- ・ CREAT 文出力機能
Excel シートに入力されたテーブル仕様書から、テーブル生成用の CREATE 文をファイルに出力します。

2. 使用制限

本ソフトはフリーソフトです。個人・法人にかかわらず自由にご使用ください。
本ソフトへのリンクは自由ですが、転載、配布は禁止します。
なお著作権はすべて株式会社 Wize が保有しています。

本ソフトを使用した事によって生じたすべての障害・損害・不具合等に関して、弊社は一切の責任を負いません。
各自の責任においてご使用ください。

3. 動作環境

本ソフトの動作確認済み環境は以下のとおりです。

| | | |
|----------|--------------------------------------|--------------------------------|
| OS | Microsoft Windows 7 (32bit, 64bit 版) | |
| Excel | Microsoft Excel 2013 (32bit 版) | Microsoft Excel 2013 (64bit 版) |
| データベース | Oracle 11g Client (32bit 版) | Oracle 11g Client (64bit 版) |
| インターフェース | データソース(ODBC) (32bit 版) | データソース(ODBC) (64bit 版) |

【注意】

Windows7 64bit 環境で使用する場合、Excel, データベース, インターフェースはすべて 32bit 版または 64bit 版で統一してください。

32bit 版, 64bit 版が混在している場合、データベースアクセス機能が正しく動作しません。

なお、Windows7 32bit 環境で使用する場合は、Excel, データベース, インターフェースはすべて 32bit 版となりますので問題ありません。

4. 動作環境設定

使用目的に応じた設定項目は以下のようになっています。

以下の表を参考にして、データベースからテーブル定義情報を取得する DB インポート機能を使用するか、ワークシートに入力したテーブル定義情報から CREATE 文を出力する機能を使用するかにより、必要な項目を設定してください。

| 設定項目 | DB インポート機能 | CREATE 文出力機能 |
|------------------|------------|--------------|
| ネットサービス名 | ● | — |
| データソース(ODBC) | ● | — |
| Excel セキュリティセンター | ● | ● |

● 必須, △ 任意, — 不要

4.1. データベース接続用の設定

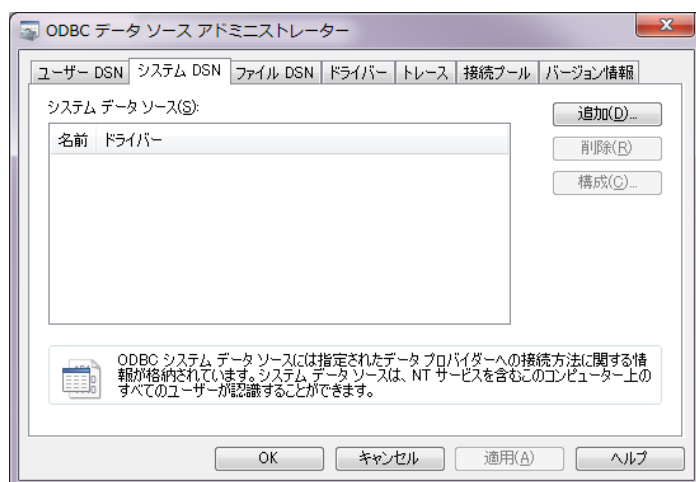
ネットサービス名の設定

あらかじめ使用するデータベースのネットサービス名(TSN サービス名)を設定しておく必要があります。スタートメニューから Net Configuration Assistant を起動して設定してください。設定方法の詳細については、Net Configuration Assistant のマニュアルを参照してください。

データソースの設定

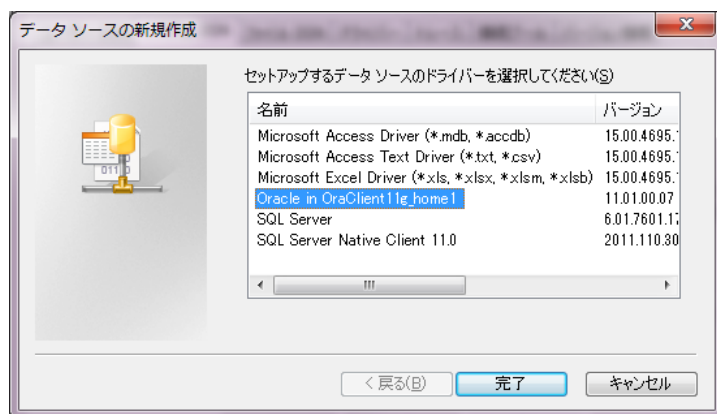
- 1) コントロールパネル/管理ツール/データソース(ODBC) を起動します。
 なお、Windows7 64bit 環境で、32bit 版の ODBC データアドミニストレータを起動するためには、
 %systemdrive%\Windows\SysWoW64\odbcad32.exe を実行する必要がありますので、十分ご注意ください。

- 2) ODBC データソースアドミニストレータ画面の、システム DSN のタブを選択します。

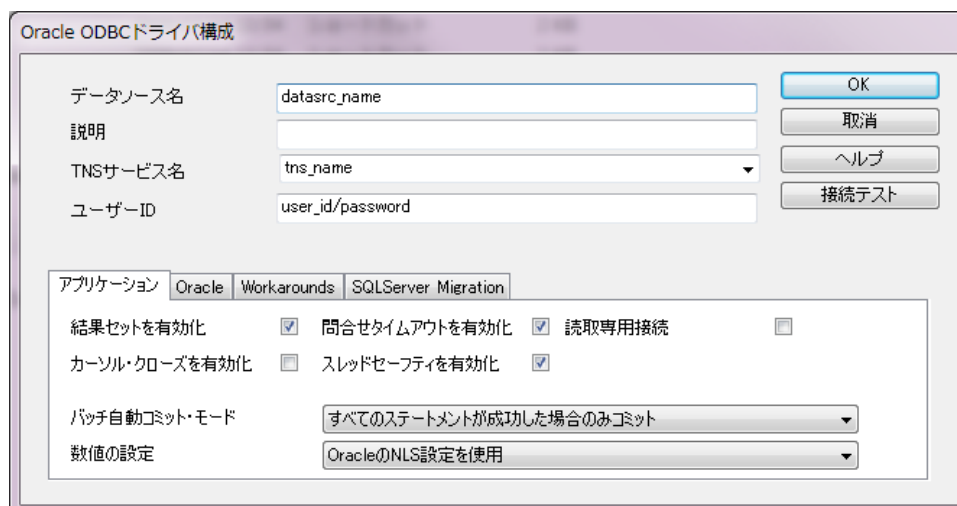


- 3) [追加]ボタンをクリックします。

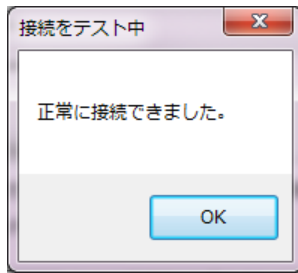
- 4) データソースの新規作成画面で、Oracle in OraClient11g_home1 を選択して、[完了]ボタンをクリックします。



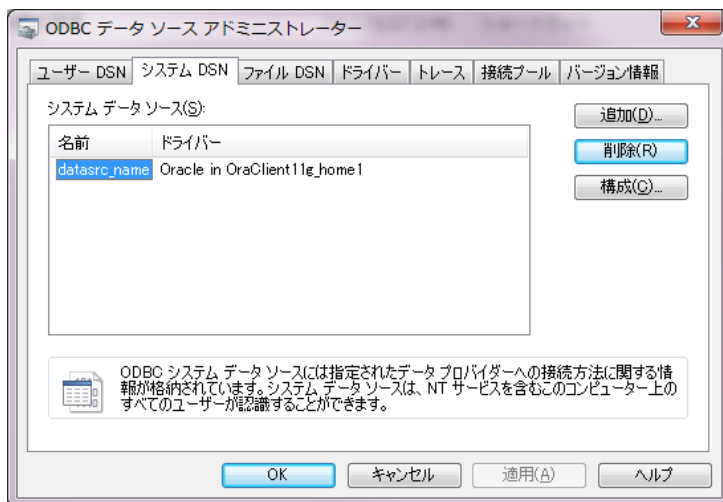
- 5) Oracle ODBC ドライバ構成画面で、データソース名, TNS サービス名, ユーザーID の項目にデータを入力します。
ユーザーID には、ユーザ ID とパスワード を “/” で区切って入力してください。



- 6) [接続テスト]ボタンをクリックします。
データベースに正常に接続できれば、下記のメッセージが表示されます。



- 7) [OK]ボタンをクリックします。
- 8) Oracle ODBC ドライバ構成画面の[OK]ボタンをクリックします。
- 9) ODBC データソースアドミニストレーター画面のシステム DSN タブで、システムデータソースで登録した名前が表示されていることを確認してください。

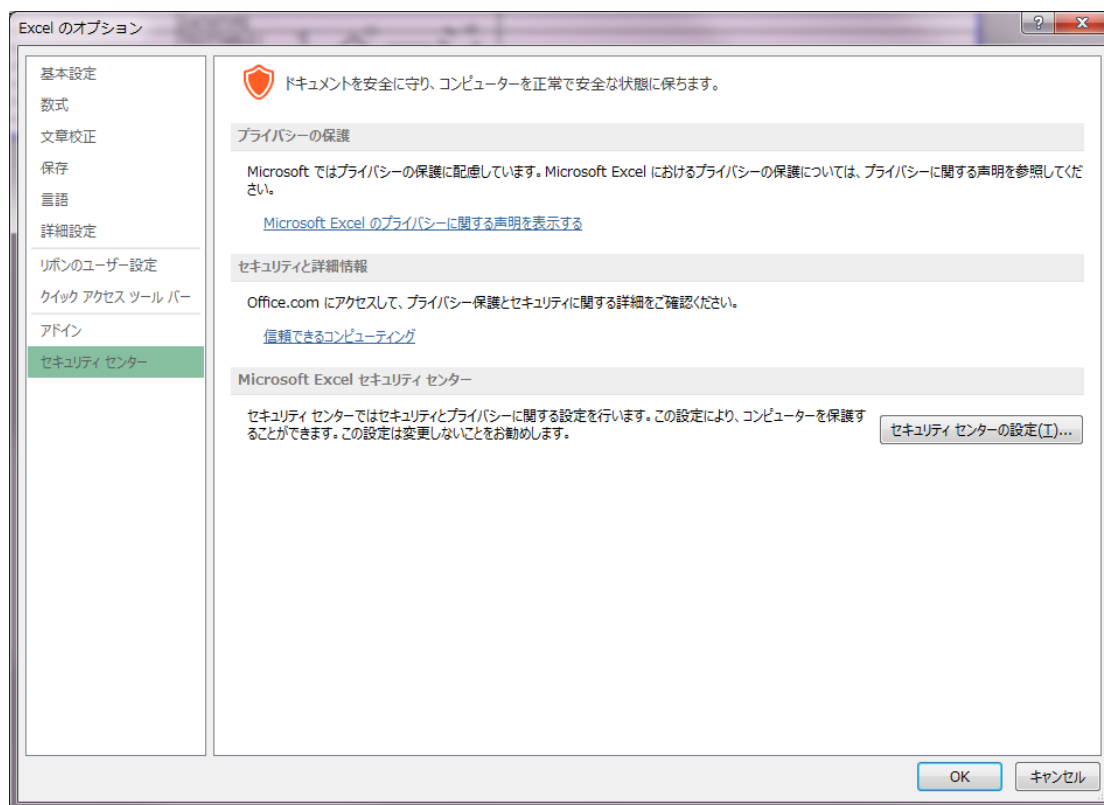


以上で ODBC データソースの設定は終了です。

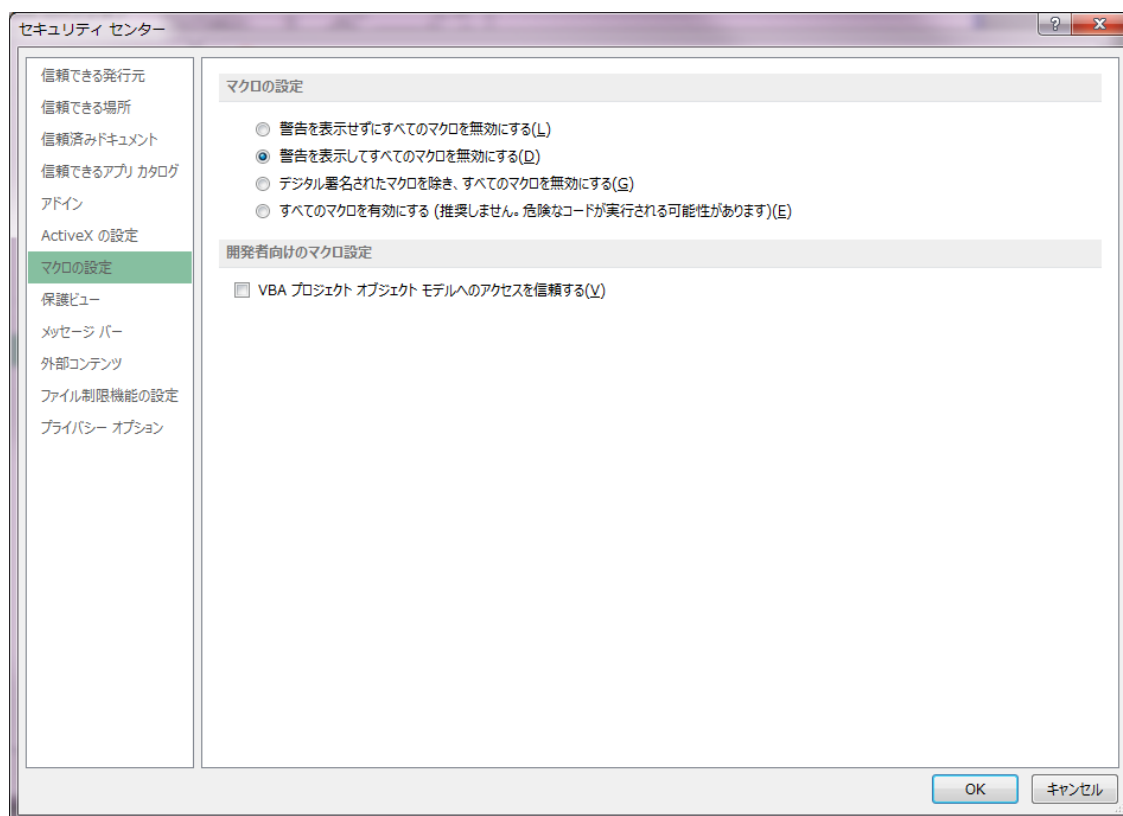
4.2. Excel のオプション設定

セキュリティセンターの設定

- 1) Excel を起動し、メニューの ファイル/オプション を選択して、Excel のオプション画面を表示し、左側のメニューから”セキュリティセンター”を選択します。



- 2) [セキュリティセンターの設定]ボタンをクリックします。
- 3) セキュリティセンターの左側のメニューから、”マクロの設定”を選択します。



- 4) マクロの設定で、“警告を表示してすべてのマクロを無効にする” を選択してください
- 5) [OK]ボタンをクリックします。
- 6) Excel のオプション画面で[OK]ボタンをクリックします。

以上で Excel の環境設定は終了です。

4.3. テーブル仕様書の環境設定

本ソフトの環境設定画面については、操作説明の「環境設定」を参照してください。

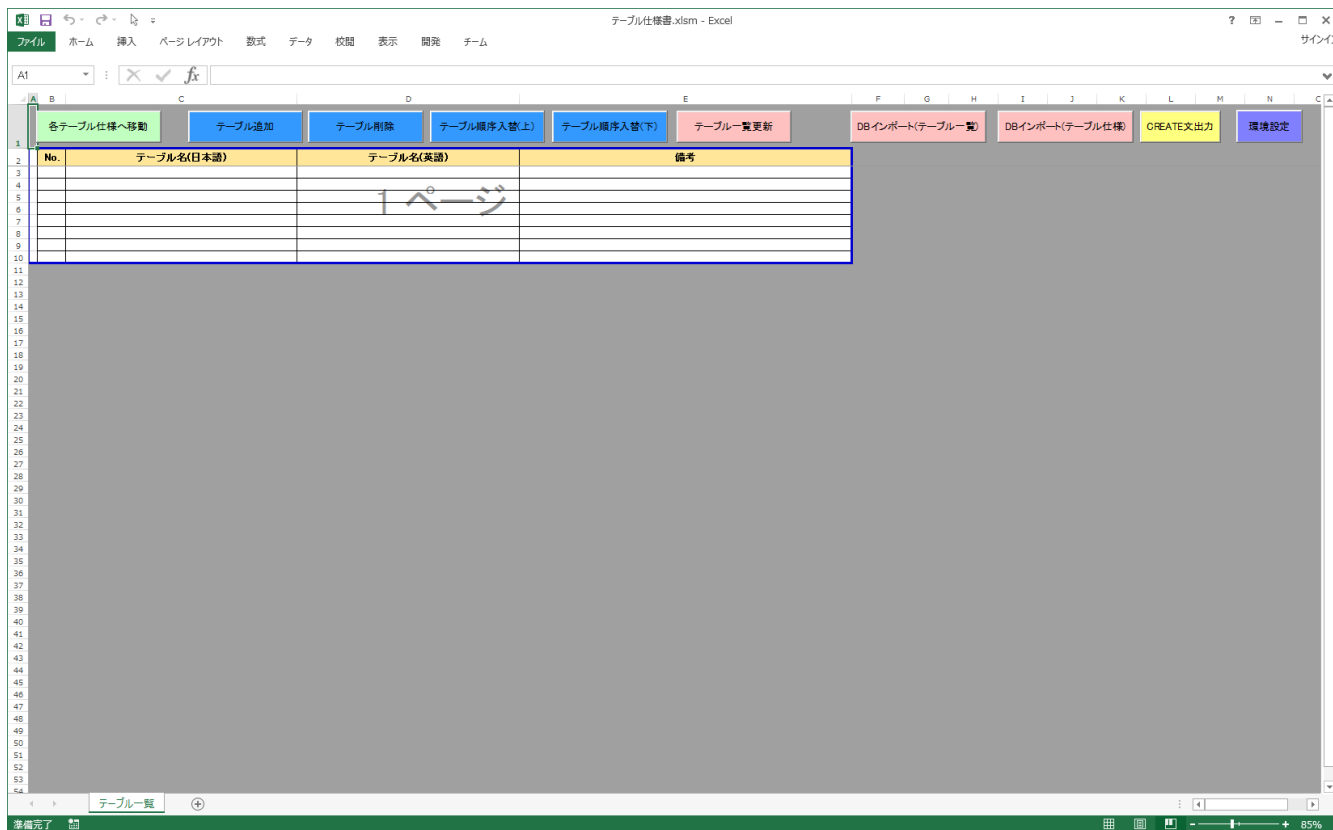
5. 操作説明

以下、テーブル仕様書の操作方法を説明します。

5.1. 起動方法

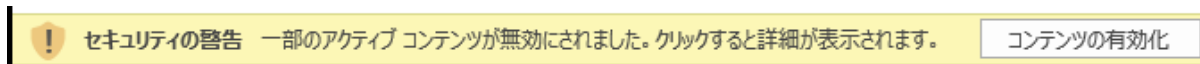
“テーブル仕様書.xlsm”を開く

通常の Excel シートと同様に“テーブル仕様書.xlsm”ファイルを開いて起動してください。
起動すると以下のような画面が表示されます。



セキュリティの警告が表示される場合

起動後、Excel メニューの下に以下のような警告メッセージが表示される場合は、[コンテンツの有効化]ボタンをクリックしてください。



その他

シート上部にあるボタンをクリックしても何も動作しない場合は、Excel の環境設定で、マクロの実行が無効になっている可能性があります。再度 Excel のオプション設定 に従って設定内容を確認してください。

5.2. 環境設定

“テーブル一覧シート”の[環境設定]ボタンをクリックする

テーブル仕様書の機能を使用するためには、最初に環境設定が必要です。
環境設定ボタンをクリックすると、以下のような画面が表示されます。

各項目を設定してください。

| 設定項目 | 内容 |
|-------------------|--|
| バージョン | テーブル仕様書のバージョン番号です |
| データベース種別 | データベースの種別を選択します (現在のバージョンでは Oracle 以外選択できません) |
| ODBC データソース名(DSN) | ODBC データソース名を入力します |
| プロジェクト名 | プロジェクト名を入力します CREATE 文出力時に使用します |
| スキーマ名 | スキーマ名を入力します |
| CREATE 文でスキーマ名を使用 | CREATE 文のテーブル名にスキーマ名を付加するかどうかを指定します |
| マテリアライズドビュー情報の取得 | DB インポート時にマテリアライズドビュー情報を取得するかどうかを指定します (現在は“取得しない”しか選択できません) マテリアライズドビュー情報のテーブル名は、先頭に MLOG\$_ 、 RUPD\$_ 、 USLOG\$_ が付いています |
| CREATE 文出力フォルダ | CREATE 文ファイルの出力先フォルダを入力します [参照]ボタンで任意のフォルダを指定できます |

必要項目を設定した後、以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

| ボタン | 機能 |
|-------|-------------------------|
| OK | 入力されたデータを環境設定シートに保存します。 |
| キャンセル | 環境設定の変更を行いません。 |

以下の表を参考にして、データベースからテーブル定義情報を取得する DB インポート機能を使用するか、ワークシートに入力したテーブル定義情報から CREATE 文を出力する機能を使用するかにより、必要な項目を設定してください。

| 設定項目 | | DB インポート機能 | CREATE 文出力機能 |
|------------------|-------------------|------------|--------------|
| テーブル仕様書の 環境設定 | データベース種別 | ● | ● |
| | ODBC データソース名(DSN) | ● | — |
| | プロジェクト名 | — | △ |
| | スキーマ名 | △ | △ |
| | CREATE 文でスキーマ名を使用 | — | △ |
| | マテリアライズドビュー情報の取得 | △ | — |
| | CREATE 文出力フォルダ | — | ● |

● 必須, △ 任意, — 不要

5.3. 終了方法

“テーブル仕様書.xlsm”を閉じる

通常の Excel シートと同様に“テーブル仕様書.xlsm”ファイルを閉じて終了してください。

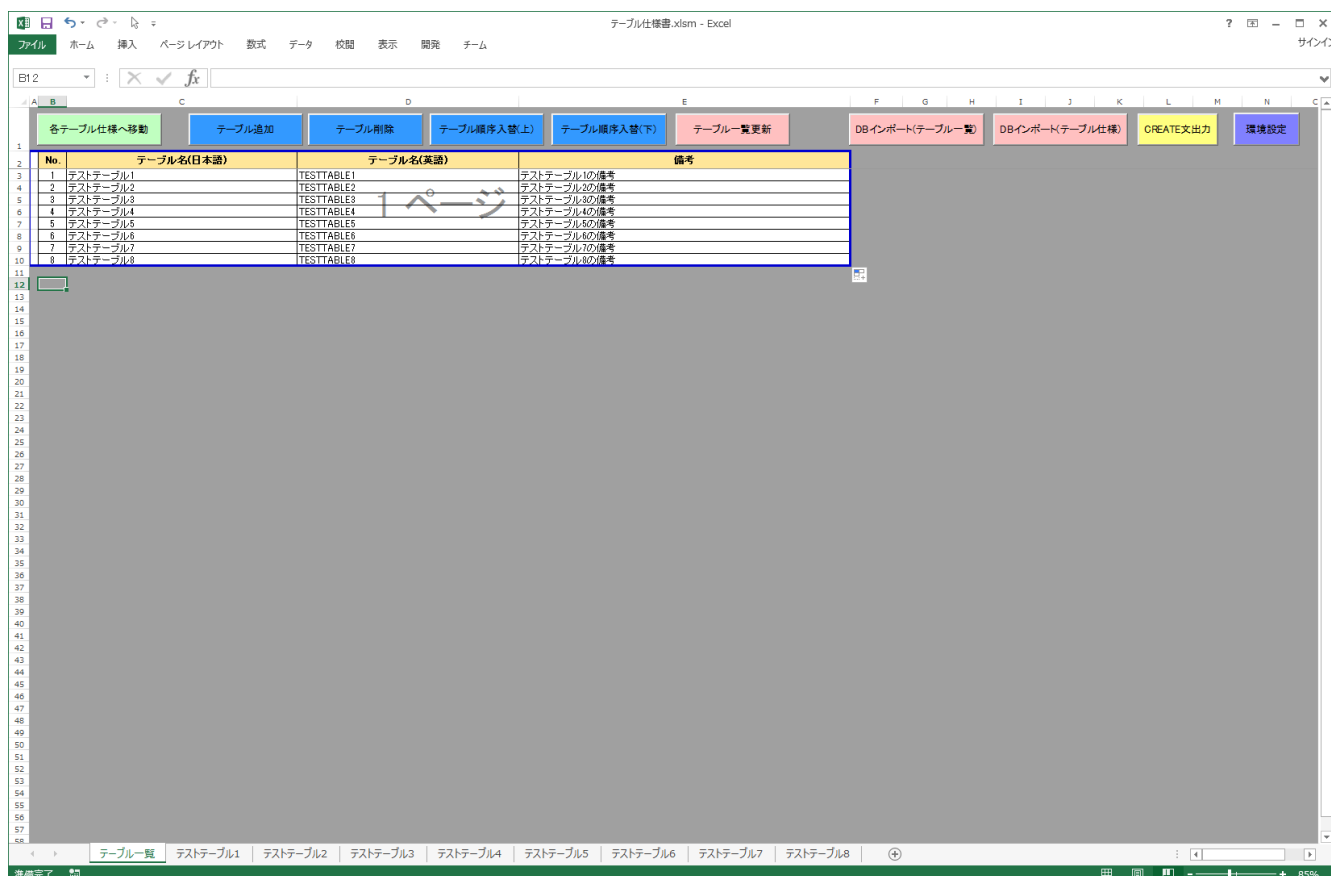
5.4. シート一覧

テーブル仕様書には、以下に示す 5 種類のワークシートがあります。

| シート名 | 機能・用途 |
|----------------|---|
| テーブル一覧 | テーブル一覧の表示、各種操作実行用ボタン 初回起動時に唯一作成されているシートです |
| 日本語テーブル名 | 各テーブル仕様の表示、各種操作実行用ボタン テーブル仕様を追加するとシートが追加されます |
| 環境設定 | 環境設定の内容を保存します(非表示) |
| Table Template | テーブル仕様作成用のテンプレートシートです(非表示) |
| SQL Template | CREATE 文出力用のテンプレート文字列です(非表示) |

5.5. テーブル一覧シート

テーブル一覧シートは、データベースから取得したテーブル定義の一覧表示、テーブル一覧からテーブル仕様書の作成、およびテーブル仕様書から CREATE 文を作成するなど、テーブル仕様書の主要機能が集約されているシートです。



各ボタンの機能

[各テーブル仕様へ移動]

テーブル一覧で選択したテーブル仕様シートへ移動します。
 テーブル一覧の任意の行を選択してからこのボタンをクリックすると、選択された行の”テーブル名(日本語)”と同一名のワークシートへ移動します。

[テーブル追加]

テーブル一覧表にテーブルを追加します。
 このボタンをクリックすると、以下のダイアログボックスが表示されます。

必要項目を入力してください。

| 項目名 | 機能 |
|------------|--|
| スキーマ名 | スキーマ名を入力します 環境設定で入力されたスキーマ名が表示されます。 |
| テーブル名(英語) | テーブル名を英語で入力します。データベースに定義するテーブル名として使用されます。省略できません。 |
| テーブル名(日本語) | テーブル名を日本語で入力します。データベースに定義するテーブルのコメントとして使用されます。省略できません。 |
| テーブル備考 | テーブル名の備考を入力します。データベースに定義するテーブルのコメントとして使用されます。 |

上記の項目を入力した後、以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

| ボタン | 機能 |
|------------|---------------------------|
| 選択した行の下に挿入 | テーブル一覧表の選択行の下にテーブルを追加します。 |
| 最下行に追加 | テーブル一覧表の最下行にテーブルを追加します。 |
| キャンセル | 処理を行いません。 |

[テーブル削除]

テーブル一覧表からテーブルを削除します。
 テーブル一覧の任意の行を選択してからこのボタンをクリックすると、選択された行のテーブル情報が削除されます。

[テーブル順序入替(上)]

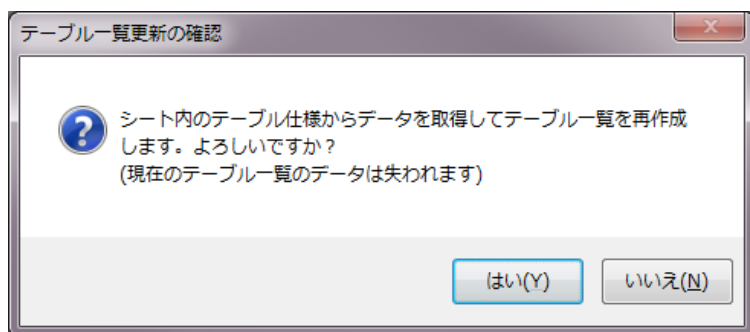
テーブル一覧表の行を 1 つ上に移動します。
 テーブル一覧の任意の行を選択してからこのボタンをクリックすると、選択した行が 1 つ上の行と入れ替わります。

[テーブル順序入替(下)]

テーブル一覧表の行を 1 つ下に移動します。
 テーブル一覧の任意の行を選択してからこのボタンをクリックすると、選択した行が 1 つ下の行と入れ替わります。

[テーブル一覧更新]

あらかじめテーブル仕様シートが 1 つ以上作成されている必要があります。
このボタンをクリックすると、以下の確認メッセージが表示されます。



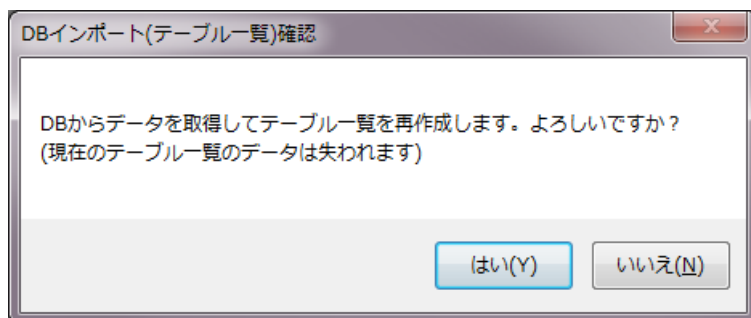
以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

| ボタン | 機能 |
|-----|--|
| はい | テーブル仕様書に入力されている情報を元に、テーブル一覧データを再作成します。 |
| いいえ | 処理を行いません。 |

[DB インポート(テーブル一覧)]

データベースに接続します。
データベースに定義されているテーブル一覧情報を取得し、テーブル一覧データを再作成します。

このボタンをクリックすると、以下の確認メッセージが表示されます。



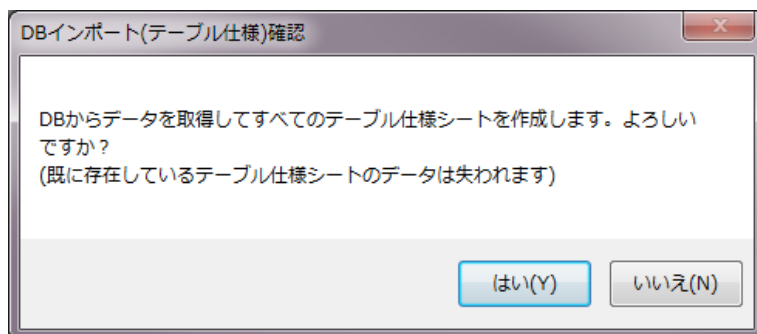
以下のいずれかのボタンをクリックしてください

| ボタン | 機能 |
|-----|--|
| はい | データベースからテーブル一覧情報を取得し、テーブル一覧データを再作成します。 |
| いいえ | 処理を行いません。 |

[DB インポート(テーブル仕様)]

データベースに接続します。
テーブル一覧に入力されているすべてのテーブル定義情報をデータベースから取得し、テーブル仕様シートの内容を更新します。
すでにテーブル仕様書シートが存在している場合でも、データを更新するので十分ご注意ください。

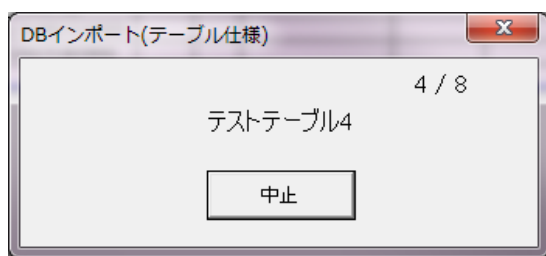
このボタンをクリックすると、以下の確認メッセージが表示されます。



以下のいずれかのボタンをクリックしてください。

| ボタン | 機能 |
|-----|---|
| はい | データベースからすべてのテーブル定義情報を取得し、テーブル仕様データを一括作成します。 |
| いいえ | 処理を行いません。 |

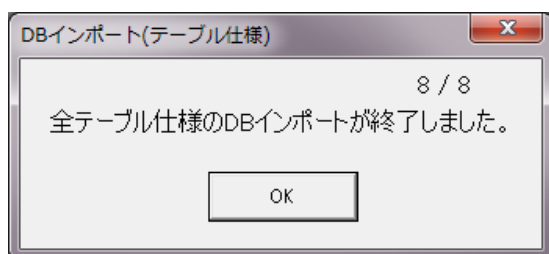
処理実行中は以下のようなメッセージで処理の状況を表示します。



中央に現在作成中のテーブル名、右上に、“作成中のテーブル数 / 全テーブル数” を表示します。
[中止]ボタンを押すと、処理を途中で中止することができます。

| ボタン | 機能 |
|-----|-----------------------|
| 中止 | テーブル仕様シートの作成処理を中止します。 |

テーブル仕様の作成処理が最後まで終了すると以下のメッセージが表示されます。



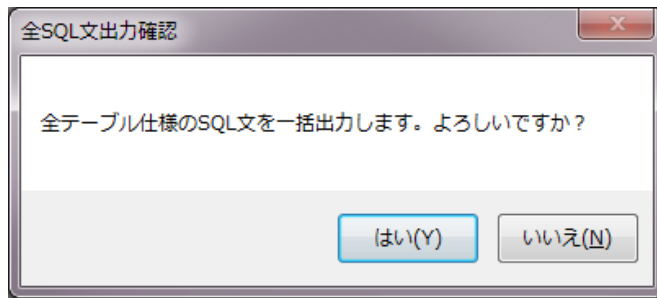
[OK]ボタンを押してこのメッセージを終了してください。

[CREATE 文出力]

テーブル仕様に定義されている各テーブル定義情報に基づき、CREATE 文を一括作成します。
ただし出力するファイルは 1 テーブルごとに 1 ファイルとなります。

出力するファイル名は、“CT_<テーブル名(英語)>.sql” となります。
ファイル出力先は、環境設定の“CREATE 文出力フォルダ”で指定した場所になります。

このボタンをクリックすると、以下の確認メッセージが表示されます。



以下のいずれかのボタンをクリックしてください

| ボタン | 機能 |
|-----|----------------------------------|
| はい | すべてのテーブル定義情報から、CREATE 文を一括出力します。 |
| いいえ | 処理を行いません |

テーブル一覧データ

各項目の内容は以下のようになっています

No.

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|---|--|
| データベースのテーブル一覧から、テーブル情報を取得した順に 1 から始まる連続する数字を表示します | No.に入力されているデータと関係なく、一番上の行から順に CREATE 文を出力します |

テーブル一覧の、[テーブル追加], [テーブル削除], [テーブル順序(上)], [テーブル順序(下)], [テーブル更新] ボタンを使用した場合は、No.は自動で 1 から始まる数値を割り付けます。

注意

手作業でテーブル一覧データを追加、削除した場合は、No. の表示は自動更新されません
また No. 欄には空白を入力しないでください。

テーブル名(日本語)

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|--|--|
| データベースのテーブル一覧から、テーブルコメントの 1 番目の要素(※)を取得して表示します | 入力された値を、テーブル定義のテーブルコメントの 1 番目の要素(※)にセットします |

テーブル名(英語)

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|---------------------------------|-----------------------------|
| データベースのテーブル一覧から、テーブル名を取得して表示します | 入力された値を、テーブル定義のテーブル名にセットします |

備考

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|--|--|
| データベースのテーブル一覧から、テーブルコメントの 2 番目の要素(※)を取得して表示します | 入力された値を、テーブル定義のテーブルコメントの 2 番目の要素(※)にセットします |

※ テーブルコメントの要素

テーブル仕様書では、データベースのテーブルコメントを、1 番目の要素(日本語テーブル名)と 2 番目の要素(テーブルの備考)を、スペースで区切って格納するというルールを設定し、それに従って DB インポート, CREATE 文出力を行います。

シートの印刷

- 印刷範囲はテーブル一覧データが入力されている領域のみに限定しています。
- ヘッダ部に、シート名(テーブル一覧), 印刷日時、ヘッダ部にページ番号/総ページ数、Copyright を表示します。

5.6. テーブル仕様シート

テーブル仕様シートは、作成したテーブル仕様の数に応じて複数作成されますが、テンプレートシート (Table Template) からコピーして作成されるので、各ボタンや表示機能はすべて共通となります。テーブル仕様シートは以下のような形式になっています。

| No. | 項目名(日本語) | 項目名(英語) | データ型 | 桁数 | 位取 | デフォルト値 | NOT NULL | UNIQUE | PRIMARY | 備考 | INDEX |
|-----|----------|---------|---------------------------|----|----|--------|----------|--------|---------|----|-------|
| 1 | | CLM1 | VARCHAR2 | 11 | | | | | 1 | | |
| 2 | | CLM2 | NVARCHAR2 | 11 | | | | | 2 | | |
| 3 | | CLM3 | CHAR | 1 | | | | | | | |
| 4 | | CLM4 | NCHAR | 1 | | | | | | | |
| 5 | | CLM5 | NUMBER | 8 | 1 | | | | | | |
| 6 | | CLM6 | BINARY_FLOAT | | | | | | | | |
| 7 | | CLM7 | BINARY_DOUBLE | | | | | | | | |
| 8 | | CLM8 | DATE | | | | | | | | |
| 9 | | CLM9 | TIMESTAMP(S) | | | | | | | | |
| 10 | | CLM10 | INTERVAL YEAR(2) TO MONTH | | | | | | | | |
| 11 | | CLM11 | INTERVAL DAY(2) TO SECOND | | | | | | | | |
| 12 | | CLM12 | RAW | 5 | | | | | | | |
| 13 | | CLM13 | | | | | | | | | |
| 14 | | CLM14 | | | | | | | | | |

各ボタンの機能

[テーブル一覧へ移動]

テーブル一覧シートへ移動します。

[DB インポート(テーブル仕様)]

データベースに接続します。

選択したシートに対応するテーブル定義情報をデータベースから取得し、テーブル仕様シートの内容を更新します。

このボタンをクリックすると、以下の確認メッセージが表示されます。

DBインポート確認

DBからデータを取得してテーブル仕様を再作成します。よろしいですか？
(現在のテーブル仕様のデータは失われます)

はい(Y)

いいえ(N)

以下のいずれかのボタンをクリックしてください

| ボタン | 機能 |
|-----|---|
| はい | データベースからテーブル定義情報を取得し、テーブル仕様書データを再作成します。 |
| いいえ | 処理を行いません |

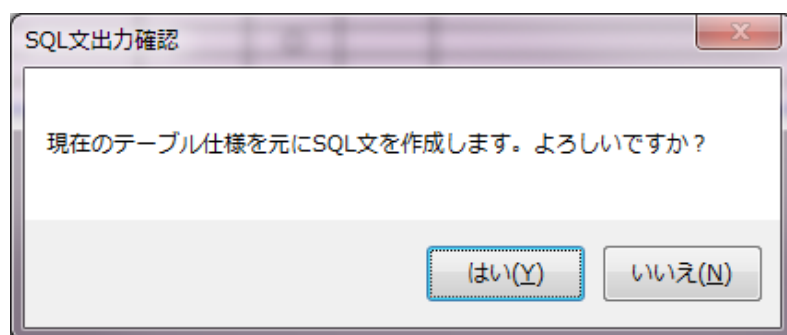
[CREATE 文出力]

テーブル仕様シートに入力されたデータから、CREATE 文を出力します。

出力されるファイル名は、"CT_<テーブル名(英語)>.sql" です。

ファイル出力先は、環境設定の CREATE 文出力フォルダで指定した位置です。

このボタンをクリックすると、以下の確認メッセージが表示されます。



以下のいずれかのボタンをクリックしてください

| ボタン | 機能 |
|-----|-------------------------------|
| はい | 現在のテーブル定義情報から CREATE 文を作成します。 |
| いいえ | 処理を行いません |

上記以外に、テーブル仕様に入力されたデータの整合性をチェックしますが、エラーメッセージの内容は、テーブル仕様データの各項目で説明します。

テーブル仕様データ

スキーマ名

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|--|--|
| データベースからは取得しません 環境設定のスキーマ名に設定されたデータを表示します | 環境設定で”CREATE 文でスキーマ名を使用する”設定になっている場合、CREATE 文出力時に各テーブル仕様シート内に入力されたスキーマ名を使用します。 |

テーブル名(日本語)

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|---|---|
| データベースのテーブルコメントの 1 番目の要素(※1)を取得して表示します。 | CREATE 文でテーブルコメントの 1 番目の要素(※1)として出力します。 |

テーブル名(英語)

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|-------------------------|-------------------------|
| データベースのテーブル名を取得して表示します。 | CREATE 文でテーブル名として出力します。 |

備考

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|---|---|
| データベースのテーブルコメントの 2 番目の要素(※1)を取得して表示します。 | CREATE 文でテーブルコメントの 2 番目の要素(※1)として出力します。 |

※1 テーブルコメントの要素

テーブル仕様書では、データベースのテーブルコメントを、1 番目の要素(日本語テーブル名)と 2 番目の要素(テーブルの備考)を、スペースで区切って格納するというルールを設定し、それに従って DB インポート、CREATE 文出力を行います。

TABLESPACE(DATA)

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|------------------------------------|---|
| データベースのデータ格納用のテーブルスペース名を取得して表示します。 | 入力されたデータを、テーブル定義のデータ格納用テーブルスペース名として出力します。 |

TABLESPACE(INDEX)

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|---------------------------------------|--|
| データベースのインデックス格納用のテーブルスペース名を取得して表示します。 | 入力されたデータを、テーブル定義のインデックス格納用テーブルスペース名として出力します。 |

No.

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|--|---|
| データベースのテーブル定義から、カラム情報を取得した順に 1 から始まる連続する数字を表示します | No.に入力されているデータと関係なく、1 番上の行から順に CREATE 文のカラム定義を出力します |

項目名(日本語)

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|--|-------------------------------|
| データベースのテーブル定義から、カラムコメントの 1 番目の要素(※2)を取得して表示します | カラムコメントの 1 番目の要素(※2)として出力します。 |

項目名(英語)

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|--------------------------------|----------------------|
| データベースのテーブル定義から、カラム名を取得して表示します | テーブル定義のカラム名として出力します。 |

データ型

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|--------------------------------|--|
| データベースのテーブル定義から、データ型を取得して表示します | <p>データ型定義として出力します。</p> <p>以下のデータ型は、データ型と桁数、位取の内容をチェックします。</p> <p>VARCHAR2, NVARCHAR2, CHAR, NCHAR, LONG, CLOB, NUMBER, BINARY_FLOAT, BINARY_DOUBLE, DATE, RAW, BLOB, BFILE, ROWID, UROWID, FLOAT</p> <p>上記以外のデータ型はチェックを行いませんので、入力したデータがそのままデータ型として出力されます</p> |

桁数 および 位取

| DB インポート時 | | | CREATE 文出力時 | | | |
|---|----------------|------------|------------------------------------|----|----|---------------|
| データベースのテーブル定義から取得したデータ型に応じて、以下のように表示します | | | 入力されたデータにより、カラム定義のデータ型を以下のように出力します | | | |
| データ型 | 桁数 | 位取 | データ型 | 桁数 | 位取 | CREATE 文 |
| VARCHAR2 | char_length | 空白 | VARCHAR2 | x | | VARCHAR2(x) |
| NVARCHAR2 | char_length | 空白 | NVARCHAR2 | x | | NVARCHAR2(x) |
| CHAR | char_length | 空白 | CHAR | | | CHAR |
| NCHAR | char_length | 空白 | CHAR | x | | CHAR(x) |
| CLOB | data_length | 空白 | NCHAR | | | NCHAR |
| NUMBER(x, y) | data_precision | data_scale | NCHAR | x | | NCHAR(x) |
| NUMBER(x) | data_precision | 空白 | CLOB | | | CLOB |
| NUMBER | 空白 | 空白 | NUMBER | | | NUMBER |
| FLOAT(x) | data_precision | 空白 | NUMBER | x | | NUMBER(x) |
| FLOAT | 空白 | 空白 | NUMBER | x | y | NUMBER(x, y) |
| BINARY_FLOAT | 空白 | 空白 | FLOAT | | | FLOAT |
| BINARY_DOUBLE | 空白 | 空白 | FLOAT | x | | FLOAT(x) |
| DATE | 空白 | 空白 | BINARY_FLOAT | | | BINARY_FLOAT |
| TIMESTAMP | 空白 | 空白 | BINARY_DOUBLE | | | BINARY_DOUBLE |
| INTERVAL YEAR TO MONTH | 空白 | 空白 | DATE | | | DATE |
| INTERVAL DAY TO SECOND | 空白 | 空白 | ROWID | | | ROWID |
| ROWID | 空白 | 空白 | RAW | | | RAW |
| RAW | data_length | 空白 | RAW | x | | RAW(x) |
| UROWID | data_length | 空白 | UROWID | | | UROWID |
| BLOB | 空白 | 空白 | UROWID | x | | UROWID(x) |
| BLOB | 空白 | 空白 | BLOB | | | BLOB |
| BFILE | 空白 | 空白 | BFILE | | | BFILE |
| LONG | 空白 | 空白 | LONG | | | LONG |

上記以外のデータ型が入力された場合は、データ型、桁数、位取りいずれも内容をチェックしません

デフォルト値

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|--|--------------------------------------|
| データベースのテーブル定義から、カラムの DATA DEFAULT を取得してその値を表示します | データが入力されている場合、カラム定義に DEFAULT を出力します。 |

NOTNULL

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|--|--|
| データベースのテーブル定義から、カラムの NULLABLE を取得し、 NULLABLE 指定されている場合は○を表示します | ○が入力されている場合、カラム定義に NOT NULL ENABLE を出力します |

UNIQUE

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|---|--|
| データベースのテーブル定義から、カラムの制限情報を取得し、 UNIQUE 指定されている場合は○を表示します | ○が入力されている場合、カラム定義に CONSTRAINT UNIQUE を出力します |

PRIMARY

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|--|---|
| データベースのテーブル定義から、カラムの制限情報を取得し、 PRIMARY 指定されている場合はそのポジション番号(1, 2, 3, ...)を表示します | 1 から始まる数値が入力されている場合、カラム定義に CONSTRAINT PRIMARY を出力します |

備考

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|--|---|
| データベースのテーブル定義から、カラムコメントの 2 番目の要素(※2)を取得して表示します | データが入力されている場合、カラムコメントの 2 番目の要素(※2)として出力します。 |

INDEX

| DB インポート時 | CREATE 文出力時 |
|--|---|
| データベースのテーブル定義から、 INDEX 情報、および UNIQUE INDEX 情報を取得し、 INDEX 情報はポジション番号(1, 2, 3, ...)を表示します UNIQUE INDEX 情報はポジション番号を(U1, U2, ...)のように表示します。 | 1 から始まる数値が入力されている場合、 INDEX 情報を出力します。 U1, U2, U3, ... のように U が付加された数値が入力されている場合、 UNIQUE INDEX 情報を出力します。 |

※2 カラムコメントの要素

テーブル仕様書では、データベースのカラムコメントを、1 番目の要素(日本語項目名)と 2 番目の要素(カラムの備考)を、スペースで区切って格納するというルールを設定し、それに従って DB インポート、CREATE 文出力を行います。

出力される CREATE 文の構成

CREATE 文を生成する処理では、以下の SQL Template シート内の各キーワードを所定の文字列と置換えます。

```

-----
-- プロジェクト名: %project%
--   テーブル名: %table_name_j%
--   説明: %table_remark%
--
-- %copyright%
-----

-- %table_name_j% のバックアップを作成 (%table_name_e%)
-----
DROP TABLE %table_name_e%_SV;
CREATE TABLE %table_name_e%_SV NOLOGGING PARALLEL AS SELECT * FROM %table_name_e%;

-----
-- %table_name_j% を作成 (%table_name_e%)
-----
DROP TABLE %table_name_e%;
%CREATE_TABLE%

-----
-- コメント
-----
COMMENT ON TABLE %schema_name%"%table_name_e%" IS '%table_comment%';
%COMMENT_COLUMN_LIST%

-----
-- インデックス
-----
%INDEX_COLUMN_LIST%

%EOF%

```

キーワードと置換える文字の対応

| SQL Template 内キーワード | 置換える文字 |
|-----------------------|---|
| %project% | 環境設定の”プロジェクト名” |
| %table_name_j% | 各テーブル仕様の”テーブル名(日本語)” |
| %table_remark% | 各テーブル仕様の”テーブル備考” |
| %copyright% | コピーライト (内部固定) |
| %copyright% | 各テーブル仕様の”テーブル名(英語)” |
| %CREATE_TABLE% | 各テーブル仕様から生成した CREATE TABLE 句全体 |
| %schema_name% | 各テーブル仕様の”スキーマ名” |
| %table_comment% | 各テーブルの”テーブル名(日本語)”と”テーブル備考”をスペースで連結したもの |
| %COMMENT_COLUMN_LIST% | 各テーブル仕様の”項目名(日本語)”と”備考”をスペースで連結したもの |
| %EOF% | 置換えなし (ファイルの終りを判定するため) |

シートの印刷

- 印刷範囲はテーブル仕様データが入力されている領域のみに限定しています。
ただしテーブル仕様で INDEX 定義がひとつもない場合でも、INDEX 領域の 2 列分は印刷範囲に含まれます。
- ヘッダ部の表示
テーブル名(日本語), 印刷日時を表示します。
- ヘッダ部の表示
ページ番号/総ページ数、Copyright を表示します。

6. 処理実行時のチェック項目

テーブル仕様書では、各処理実行時に以下のようなチェックを行います。
エラーが検出されると対応するメッセージを表示します。

6.1. テーブル一覧のチェック項目

[テーブル一覧更新] 実行時

テーブル仕様が 1 つ以上作成されていること。
テーブル仕様の “テーブル名(日本語)” がシート名と一致していること。

[DB インポート(テーブル仕様)] 実行時

テーブル一覧の “テーブル名(日本語)” が空白でないこと。
テーブル一覧の “テーブル名(日本語)” に、Excel シート名に使用できない文字が含まれていないこと。

Excel のシート名に使用できない文字は以下のとおりです (小文字, 大文字ともに)
“:”, “¥”, “/”, “?”, “*”, “[”, “]”

テーブル一覧の “テーブル名(日本語)” が重複していないこと。

6.2. テーブル仕様のチェック項目

[DB インポート(テーブル仕様)] 実行時

テーブル仕様の “テーブル名(英語)” が空白でないこと。
テーブル仕様の “テーブル名(日本語)” が空白でないこと。

[CREATE 文出力] 実行時

テーブル仕様の “テーブル名(英語)” が空白でないこと。
テーブル仕様の “テーブル名(日本語)” が空白でないこと。
テーブル仕様の “項目名(英語)” が空白でないこと。
テーブル仕様の “データ型)” が空白でないこと。

7. おわりに

本ソフトをダウンロードしていただきまして、ありがとうございます。

感想や要望、バグなどありましたらお手数ですが info@wizejp.com までご連絡ください。